様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 2 日現在

機関番号：14202
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2009～2010
課題番号：21890111
研究課題名（和文）　離島に居住する独居高齢者の“生活の術”～大腿骨骨折術後の後期高齢者～
研究課題名（英文）“The art of life” of elderly people living alone in Remort island
－After the operation of Fracture of the femur women－

研究代表者
金城　八津子（KINJYO YATSUKO）
滋賀医科大学・医学部・助教
研究者番号：20548193

研究成果の概要（和文）：
離島に居住する独居高齢者は、猛暑や台風という厳しい自然環境下での生活を受容し、海上にある島嶼性故に家族と離れざるを得ない境遇にありながらも、継続して働き続けることを誇りにしていた。また祖先崇拝をはじめ、自らに適した様々な土着信仰を信心することで自らを慰めて心のより所を得ていた。そして、シマ社会という地縁・血縁を基盤とした相互扶助ネットワークを用いながら、しがらみを見極めた交際を巧みに行っていた。また、男性後期高齢者の“生活の術”は、祖先崇拝による精神的基盤、出来る限り頼りたくない思いと自尊心であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
This report studies the following problems that how does elderly people living alone in Remort island after the operation of Fracture of the femur. The purpose of this study is to paid attention to national cross-cultural in Japan. I researched 8 elder people and Investigation ground stays 76days.We conducted non-structured interviews and use participant observation live together informants to collect data on “The art of life” of subjects in their daily life. We analyzed this data using qualitative induction with Ethnography.
“The art of life” of the subjects were categorized into 8 themes. I did it while the staying alone elderly person who lived in the Remote island received the life under the severe natural environments called intense heat and the typhoon, and being in circumstance that I couldn't but leave it with a family because of islands characteristics in the sea to boast of I continued it, and continuing working. In addition, I could make sport of one by performing faith of various aboriginality faiths suitable for oneself and, including ancestor worship, got the support of the heart. And I performed the association that ascertained a weir skillfully while using the mutual aid network which assumed shared territorial bonding, a blood relative called the Remort island society a base. In addition, as for “The art of life” of the male elderly people, it became clear to be a mental base by the ancestor worship, thought and the pride that I did not want to rely on as much as possible.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,050,000	315,000	1,365,000
2010 年度	320,000	96,000	416,000
総　計	1,370,000	411,000	1,781,000

研究分野：在宅看護学、地域看護学
科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学
キーワード：
(1) エスノグラフィー(2) 島嶼看護(3)生活の術 (4) 大腿骨骨折 (5) 文化 (6)看護人類学

１．研究開始当初の背景

Ａ． 発展段階にある島嶼看護

日本国は、その国土自体が島国である。大小様々な離島を有しているため、島嶼看護研究の必要性が高い。これまでの看護学領域における先行研究では、地域の物理的・地理的状況からくる交通や、保健・医療・福祉領域のサービスの不便性など、いわゆる「陰」の側面である離島苦をテーマとして取り扱うものが多かった。また、近年において地域の習慣や文化特性をテーマとし、生活習慣や多産環境因子などを取り扱った研究も出てきたが少数であり、島嶼看護研究は発展段階である。

Ｂ．国による在宅高齢者支援推進の方向性

現在、我が国は高齢者の増加、疾病構造の変化、医学医術の進歩などにより医療費の高騰を招いている。そのため、国は在宅医療を推進しようとしており[5)]、医療計画の法制化や介護保険制度の創設や、見直しを行っている。在宅高齢者支援に寄与する研究推進は急務であり、重要課題である。

Ｃ．国内における「内なる異文化」の視点

法務省によると、日本国内において在日外国人が増加している。医療現場ではただ言葉の問題だけでなく、文化・風習の相違によりケアが困難なことが報告されている。そして、在日外国人を対象とした、国際的な異文化看護の研究が進み始めている。その潮流の中、本研究では日本国内でありながら、文化が異なるとされている地域を研究対象地として選定している。地域の郷土性を考慮した「内なる異文化」の視点は、きめ細かな視点で地域を視る、先進的な学術研究である。

２．研究の目的

本研究では、離島で独居生活をする大腿骨骨折術後の後期高齢者における、“生活の術”を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

(1)研究方法は、情報提供者自宅に通い、又は宿泊にて寝食を共にし、エスノグラフィーの手法を用いて参加観察とインタビューにより平常時の暮らしぶりの情報を収集した。

(2)研究期間は平成 21 年～22 年度の 2 年間。情報提供者は、A 島 B 市に居住する大腿骨骨折術後の①女性独居後期高齢者 8 名、②男性独居高齢者 2 名で、術後経過順調な方（ADL 及び自立歩行が回復過程にある方）とし、認知症状のある方は除外対象とした。

４．研究成果

(1)離島に居住する大腿骨骨折術後の女性後期高齢者の“生活の術”は、以下のように8つの大カテゴリーと24の中カテゴリー、70の

小カテゴリーが抽出された。以下に8つの大カテゴリーを記述する。①逆らえない南国の自然を受容、②ひとり身の境遇で自らを鼓舞しつつ選んだ生活、③継続して働くことが誇り、④旅に出ている家族による精神的支えと経済的支え、⑤多くの信仰から今の自分に合ったものを選択、⑥生活を補完する公的支援を見極めて利用、⑦互酬性が根付いている土壌、⑧しがらみのあるシマ社会。以上より、離島に居住する独居高齢者は、猛暑や台風という厳しい自然環境下での生活を受容し、海上にある島嶼性故に家族と離れざるを得ない境遇にありながらも、継続して働き続けることを誇りにしていた。また祖先崇拝をはじめ、自らに適した様々な土着信仰を信心することで自らを慰めて心のより所を得ていた。そして、シマ社会という地縁・血縁を基盤とした相互扶助ネットワークを用いながら、しがらみを見極めた交際を巧みに行っていた。

(2) 離島に居住する大腿骨骨折術後の男性後期高齢者の“生活の術”は、祖先崇拝による精神的基盤と、出来る限り頼りたくない思いと自尊心であることが明らかになった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１ 件）

①金城八津子、畑下博世、植村直子、上野善子、マルティネス真喜子、藤井広美、離島に居住する男性独居高齢者の“生活の術” －大腿骨骨折術後の２事例からの考察－、滋賀医科大学看護学ジャーナル、査読有、Vol.9(1)、2011、32-35

〔学会発表〕（計１件）

①金城八津子、植村直子、畑下博世、マルティネス真喜子、離島に居住する独居高齢者の“生活の術”～大腿骨骨折術後の女性後期高齢者～、日本看護科学学会、2010

〔その他〕

ホームページ等

http://www.shiga-med.ac.jp/hq/hqlnurse/

６．研究組織

(1)研究代表者

金城　八津子（KINJYO YATSUKO）

滋賀医科大学・医学部・助教

研究者番号：20548193